

9 外国語（英語）

（1）第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況については、定期考査、授業評価アンケートや授業の様子から、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、「先生の話し方ははっきりして聞き取りやすいか」「授業の進む速さはちょうど良いか」「黒板に書く字などは見やすく、分かりやすいか」「先生の説明は分かりやすいか」「生徒の質問に対して丁寧に答えてくれるか」について、平均97%の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。教師の努力を生徒は評価していると思われる。
- ・ 同アンケートの「英語に対して興味・関心があるか」について、「あてはまる」が55%、「ややあてはまる」が29%で、合わせて84%である。やや他の項目よりは劣るが、小学校での英語活動の中でも、興味をもって取り組んできたものと思われる。
- ・ 英検3級以上に合格している生徒もいる一方で、ローマ字が読めず、文字と音声の一致に苦しむ生徒もいる。学力の個人差がとても大きい。

イ 学力の状況

1年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ デジタル教科書や教員の音声に合わせて、英語を発音することは自然にできる。英語の発音やイントネーションを真似して発音できている生徒が多い。声量も大きい。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では文法の説明を理解することが困難な生徒がいる状況である。
- ・ 覚えた表現を自分のこととして、話したり書いたりして発信する表現力を高めることが必要である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英単語、英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力をつける。
- ・ 1学期に学んだ基本的な文法を用いて話す力を身につける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ グループ活動やペア活動を短時間に制限しつつ、音読練習、ALTを含む教師との対話、生徒の個人発表活動の時間を確保するよう努める。
- ・ 音読指導の方法を工夫し、できる限り多く繰り返し発音することにより、教科書をすらすらと大きな声ではっきりと音読できるようにする。
- ・ 授業の構成を練り、目標を明確にして言語の使用場面を意識させる授業を行う。
- ・ 書く力を伸ばすために、授業における書くことの活動の内容と量を工夫する。家庭学習での取り組みで、授業で学んだ新しい文法や知識を家庭学習で定着させる
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。
- ・ 定期的に補習を行い学年全体の英語力の個人差を無くしていく。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 英語に対してさらに興味関心をもってもらうために、導入の部分で、教材に関する動画や雑学、ゲームなども取り入れて、英語が苦手な生徒でも親しみやすい内容にする。

③ 授業改善案

ア 言語活動授業への取組

- ・ コミュニカティブな活動としてペアやグループワークをできる限り取り入れ、必要に応じて個別の指導もしていく。
 - ・ 既習事項を使った表現活動を行い、復習をしつつ定着を図る。
- イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組
- ・ 授業での目標を明確にし、何ができれば目標を達成できたことになるのかを生徒に分かりやすく提示する。
 - ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
 - ・ 特別な支援が必要な生徒には、個別に声を掛け、定期的に補習を行う。
- ウ 家庭学習の定着
- ・ その日の授業内容を復習できるような学習課題を設定することで、授業内容と家庭学習の内容をサイクル化できるよう努める。
- エ その他(ICT 機器の活用等を含む)
- ・ タブレットを、英和・和英辞書として活用しながら、作文、原稿作りで活用する。
 - ・ デジタル教科書に付属しているビデオ教材やパワーポイント、音楽や映像等を使って、実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。

9 外国語（英語）

（1）第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況については、定期考査、授業評価アンケートや授業の様子から、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、「先生の話し方ははっきりして聞き取りやすいか」「黒板に書く字などは見やすく、分かりやすいか」「先生の説明は分かりやすいか」「生徒の質問に対してていねいに答えてくれるか」の項目について、平均97.5%の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。
- ・ 同アンケートの「英語に対して興味・関心があるか」について、「あてはまる」が55%、「ややあてはまる」が25%で、合わせて80%である。1年生の時より、12%ほど興味・関心が低下している。
- ・ 英検3級以上に合格している生徒が20人程度存在する。彼らは英語の文法や語彙においては優れているが、授業ではそれ相当の会話力や作文力を発揮できていない状況である。

イ 学力の状況

2年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 音声による単語の知識はあり、文法の理解もある程度できているが、その力が読むことや書くことにつながっていない。そのため、定期考査などにおける長文の読解や英作文で正答できない生徒が多い。
- ・ 音声で覚えた単語や文法の知識を文字と一致させ、自分の表現として発信できる力を身につける必要がある。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では、英語の音を聞き取って真似たり文法の説明を理解したりすることが困難な生徒が十数名いる状況である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英単語、英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力をつける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるため、家庭学習に取り組むことが必要である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ グループ活動やペア活動など学習形態を工夫して、教科書の音読練習、ALTを含む教師との対話、生徒の個人発表活動の時間を確保するよう努める。
- ・ ワークシート取組時の個別指導を一層充実させ、反復学習により文法事項を定着させることで身近なことを表現する力を身につける。
- ・ 書く力を伸ばすために、授業における書くことの活動の内容と量を工夫する。家庭学習として定期的なワークブックの取組やノート指導を行い、授業で学んだ新しい文法や知識の定着を図る。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。スモールステップで取り組み、理解しやすい工夫をする。
- ・ 生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身につける。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、音読テスト、QAテストなどのパフォーマンステストをすることで、学んだことを自分の表現として使える英語に変えていく。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 英語を使う場面を意識したペアやグループワークを多く取り入れ、言語活動に明確な意味をもたせる。

- ・ 学力の個人差に留意し、助け合いによるペア・グループワークが成立するよう配慮する。
 - ・ 即興性を意識し、その場で与えられたトピックでの会話をとおして、既習事項を使った表現活動を行う。
- イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組
- ・ 授業での目標を明確にし、何ができれば目標を達成できたことになるのかを生徒に分かりやすく提示する。
 - ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
 - ・ 特別な支援が必要な生徒には、個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。
- ウ 家庭学習の定着
- ・ その日の授業内容を復習できるような学習課題を設定することで、授業内容と家庭学習の内容をサイクル化できるよう努める。
 - ・ 単語の綴りと意味を定着させるため、単語テストを行う。
- エ その他(ICT 機器の活用等を含む)
- ・ デジタル教科書に付属しているビデオ教材、パワーポイント等を使って、実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに興味・関心を高め、会話の際の話し方を身に付けさせる。
 - ・ 学習用タブレットを積極的に活用する。具体的には、英和・和英辞書機能、Tokyo Global Gateway の動画教材、学習者用デジタル教科書、学習アプリなどを各自の学習進度や状況に応じて利用する。

9 外国語（英語）

（3）第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、定期考査や授業評価アンケート、授業の様子などから、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、英語に対して興味・関心があるか、の設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」合わせて63%、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」合わせて36%である。2年生の時より、教科に対する興味・関心は4、5ポイント低下している。
- ・ コミュニケーションに対する関心・意欲については、日常の授業やALTと話す場面において、積極的に取り組む生徒が少なくなっている。
- ・ 定期考査と学力向上を図るための調査から、長文の読解力は標準的な力があるが、語彙力文法への習熟が不足しているため、作文や発表に自信をもって取り組めていない生徒が多いことが確認できた。
- ・ 英語検定準2級に合格している生徒が20人以上、3級に合格している生徒が30人以上存在する。彼らは英語の基本的な文法や語彙においては優れているが、授業ではそれほどの会話力や作文力を発揮できていない。
- ・ 授業評価アンケートでは、授業者の話し方や黒板の使い方、質問への答え方については、それぞれ94～97%前後の生徒が「良い」「どちらかというが良い」と回答した。授業の進む早さと、授業者の説明のわかりやすさについては80%の生徒が「良い」「どちらかというが良い」と回答した。

イ 学力の状況

3年生の外国語（英語）の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 単語の知識や文法の理解を高める必要がある。
- ・ 知識・理解の能力を高め、理解の能力である聞くことや読むことの力、表現の能力である話すことや書くことの力へつなげる必要がある。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では、文字と音声に一致や単語の音を聞き取って真似たり文法の説明を理解したりすることが困難な生徒が十数名いる状況である。そのうち数名は日本語での指示や説明でも理解することが困難で、ペアワークの際にはペアの相手の言語活動の機会を失わせてしまっている。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英語表現や文法を自己表現に活用し運用する力を付ける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるために、家庭学習や補充学習への参加を促す。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業の構成を練り、目標を明確にして言語の使用場面を意識させる授業を行う。
- ・ ペアやグループなど学習形態を工夫して、音声を重視しながら反復学習により文法事項を定着させ、身近なことを表現させる活動を大切にする。
- ・ 個人用タブレットを、語彙確認、作文の自己点検、発音確認、用語やトピックに関わる検索など、様々な用途に積極的に活用するようにさせる。
- ・ 生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身に付ける。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、聞き取りや読み取りのポイントなどを意図的に指

導する。

- ・ 定期的なワークや自主学習への取組、ノート指導、ワークシート取組時の個別指導を一層充実させる。
- ・ スピーチや音読などのパフォーマンスをさせる、学んだことを自分の表現として使える英語に発展させる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ ペアやグループで言語活動を行いながら、さらに多くの生徒が発表する場面を取り入れる工夫をする。学力の個人差に留意し、助け合いによるペアワークが成立するように配慮する。
- ・ 既習事項を使った表現活動やリプロダクションを通して、英語で表現することに慣れさせ、生徒同士でコミュニケーションを楽しむことができるようにする。
- ・ ALT との授業では、ターゲットとなる表現を取り入れて、繰り返し会話するように努める。
- ・ 即興性を意識して、その場で与えられたトピックでの会話、3文以上でさらに内容の広がりのある会話をする機会を多くもつ。
- ・ 聞く力、英語で即答する力を高めるため、リスニングでは2回繰り返しではなく、1回で聞き取る経験を重ねる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 何ができれば目標を達成したのかについて、分かりやすく生徒に提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には授業中に個別に声を掛け、放課後学習教室と連携して個別に対応していく。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 家庭学習をしてきたことが次の授業で生かされる学習活動の設定など、授業内容と家庭学習の関連をさせるように努める。
- ・ 教科書本文の音読と暗唱を重視し、暗唱テスト及び筆記による小テストを細かく行う。

エ 文法の説明

- ・ 図等を使用して文法の説明を視覚化するとともに、反復練習の際も絵等を用いて、音声によるサブスチチューションドリルと、筆記による作文の両方を十分に行う。

オ 大型テレビやデジタル教材など I C T 機器を取り入れた授業への取組

- ・ 感心を高め、より理解しやすいように英語の歌や映像を取り入れる。
- ・ 学習用タブレットを積極的に活用させる。具体的には、英和・和英辞書機能、教材のトピックに関する検索機能、Tokyo Global Gateway の動画教材、生徒用デジタル教科書（指導者用デジタル教材とは異なり、紙の教科書と同じ画面から音読音声を聞くことができるだけのもの）、教科担当が作成して Google Drive に upload したノート見本や練習問題解答例などを各自の学習進度に応じて利用させる。
- ・ 実写版のビデオ教材を使って実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める